



合格したかったら、 正しく自分を変えろ！

●この号が着くころはすでに入試は始まっている。高三生は共通テスト、中三生は私立入試。初めての入試できちんと対処できた人がいる一方で、自分の勉強不足を思い知った人、頭が真っ白になって力を発揮できなかった人も少なくないはずだ。いずれにしても入試はまだ始まったばかり。これからまだまだ点は伸ばせる。一回目の入試がうまくいった人も含めてきちんと振り返り、次にそなえてほしい。だからきついことを書くぞ。

●あがってしまった力が発揮できません

面接のたびにこういう悩みを打ち明ける人がかなりいる。でも、本気ではないから大半は自分を変えない。結果、同じことをくり返す。一方で、真剣な人は自分を変えようと努力する。高校生には、本番に向けての自分作りプリントを渡しているが、真剣な人はとり組み方がちがう。「毎日読む。自分に必要な文言を暗唱する。頭が真っ白になることを想定して脱出法を練習する」そして、テストにきちんと向き合える自分を作っていく。

●さて、あがってしまうあなた。実は前号の裏面に必要なことはほぼ全て書いたのだが、読んでいますか？一度ではダメです。何度も何度も

読んで暗記するまで読んで、当日実行できるようにする。これが唯一の解決策です。

●英文を読んでも内容が頭に入ってきません

「しっかりと読め」とか、「きちんと読め」とかはいったことがない。因みに「落ち着け」とか「時間配分に気をつけろ」といったこともない。代わりに「落ち着き方」を教えるし、「時間が足りない原因の分析と解決策」を提示する。同じように、英文を読んでも内容が頭に入ってこない生徒にも、その原因の分析と解決策が必要だ。単語を覚えていないとか、高校生では構文をやっていないとかは論外だが、中高生の生徒の多くは志望校に合格するために必要な一定の学力と知識は身につけているはず。では何故頭に入っていないのか？それは「読む」ことを教わっていないからである。「読む」とは「語句のかたまりを見てその〇・一秒後に訳す」という行為で「見る・訳すの二人三脚」なのだ。しかし、これを分かっている生徒が多い。「急ごう。速く読もう」とする余り語句だけを目で追って訳す作業がなされていない。これでは内容が頭に入るはずはない。因みに英語を英語のまま偏差値が九〇を超えないと出来ないと思っただ方がよい。(それでも難しい英文は立ち止まって日本語の力を借りるのだけでも……)

●最後に、私が「訳す」ことで救われた話をしておく。中三になって模試で英語が取れなくなった。六〇点くらい。不安を抱えたまま高校入試の当日。同じ中学から一〇人ほど受験するが、引率の先生がついていくという伝統だった。その先生か



ら事前注意をうけているとき、一人の男性が近づいてきた。志望校の教師だった。「きみたちは〇〇中学か？私も〇〇中だ」「いいか、今日の英語でアドバイスをする。英文は全て訳せ」私はびっくりして質問した。「いつも時間が足りません。訳したら終わりませんよ。大丈夫ですか？」

「キミは教科書の英文はおぼえたか？」「はい、大体は……」「大丈夫だ。全部訳せ。時間は余る。点は上がる。」その自信たっぷりの言葉を信じてかけてみた。奇蹟がおきた。一五分余り満点。急ごうとして文字だけ見ていた自分が読むことを知った日だった。塾など田舎にはなかった時代のことである。(小林)

S.O.Sの法則

「よっしゃー！俺はできる……！」

卒業した生徒を思い出するとき、その生徒とのエピソードはもちろん、何気ない一言や、口癖にしていた言葉が特に強く印象に残っていることがあります。

英語が苦手な男子生徒がいました。アルファベットすらそのままならず、中一の英文テストは解読不能の暗号の羅列でした。もちろんゼロ点の連続です。中三になったあるとき、一念発起して(観念して?)、英語の教科書の本文を何も見ずにスラスラ言えるようにと、本気で英文暗唱に取り組み始めました。もちろん簡単にできることではありません。覚えられない自分と何度も葛藤しながら、最後はいつでも決まっていた言葉。「よっしゃー！俺はできる……！」。立ち上がるときの彼の決め台詞でした。できる

までやり続けた暗唱の効果が定期テストの結果へとつながり、根拠のない自信が実績のある自信へと変わっていききました。

紆余曲折を経て、千葉県公立の前期の試験日。入試が終わって塾内で自己採点をし、彼はその場で泣き崩れました。あまりにも「出来過ぎた」英語の点数を見て。前期の出願前に、第一志望に合格できる実力が伴わず(おそらく後期試験でも厳しく)、受験校を下げようとしていた彼が。母親に男ならチャレンジすることから逃げるな！と怒鳴られていた彼が。「背中を押してくれた母親のために、何としても合格を勝ち取ったかった。やることはやったと最後には胸を張ったかった。」そう言って涙を流す彼の姿はとても尊く感じられました。そして、彼は前期入試で合格を勝ち取りました。

言葉が持つ魔法のような力。「誰かのために」という想いで取り組む姿、倒れない強さよりも、自分の弱さと向き合い、その度に立ち上がることでできるのが本当の強さなのだ、多くの卒業生の姿に勇気づけられてきました。

彼ら彼女たちのそばには、一番近くで寄り添ってくれる、親友のような素敵な言葉があったことは少なくありません。



「言葉には世界を変える力がある。」と言われます。アメリカの医学博士のデイーパック・チョプラによると、人は一日に六万回も考え事(自己対話)をしているそうです。もちろん、人間は言葉によって思考します。しかし、ほとんどの人は「でも」「だって」「ど

うせ」などの後ろ向きな言葉とともに過去を悔やみ、未来にアレコレと心配しているそうです。(私も耳が痛い話です。)

一日に六万回のチャンスの矢を、今日の前の「自分の成長」に向けて投げるのか？それとも過去と未来の「後悔と不安」に向かって投げるのか？その積み重ねが大きな差を生むのは、議論の余地がなさそうです。

「やればできる」と自分に言い続けている人は、「どうすればできるか」を考え続け、「できるまでやる」のでしょう。

「できない」と信じている人は「できない理由」や「できなかった過去の実績」などを積み上げ、成長する前にストップしてしまっている。(人間は防衛反応によって無意識のうちに変化を避けようとしてしまうそうです。)

自分に向けた言葉で行動が変わり、投げかけた言葉通りの未来に向かうということ。「はじめに言葉ありき」で世界が変わるのです。

なるほどヘンリー・フォードが「自分ができると思うのも、できないと思うのも、どちらも正しい。」と言ったのも頷けます。

まさに、「S(そう)・O(思えば)・S(そうなる)」「の法則」です。創学舎の「入試直前の心構え」にもこう書いてあります。「入試直前まで気を合を入れてやれば、まず大体的ことは可能だ」。

これも「S・O・Sの法則」です。真剣に悩んだ上で受験校を「決」め、他の選択肢を「断」つたのであれば、「六万回×受験日までの日数」を自分の成長にあててください。学びに終わりはありませんが、受験生として学べるのは期間限定です。これから本番までに、解けた問題の

数だけ自信を持ってください。解けなかった問題は伸びしろポイントです。本番前に気づけてラッキーです。逃げていても合格に近づくことはできませんが、勇気を持って進めば進んだ分だけ成長があり、失うものなど何もありません。「辛」の「一」歩先は「幸」です。一緒に最後まで挑み続けましょう。

……後日談ですが、彼が高二になったあととき、街中でバッタリ会いました。「先生！英検二級受かりました！」と。それから久しく彼とは会っていませんが、今でも困難に立ち向かいながら言っていることでしょう。

「よっしゃー！俺はできる!!!」

(櫻村)

入試に強くなる

心の作り方

● 大学入試で三日連続白紙答案の人が立教合格。駆け込んできたのは立教の入試の前日。まあよく泣いた。涙がかれるほど泣かせて、気持ちの整理をさせた。

● 第十一志望だけ受かって、そのあと九連敗の人が第一志望の早稲田合格。彼女も気持ちの整理を徹底してやった。

● 「もうダメ！絶対落ちた！どうしよう……」と大泣きの生徒が、次の日慶応を受験して合格。電話口でここまで泣けるのかと思うほど泣いた。授業直前にうけた電話で、とりあえずの指示だけして、授業後十時から再び電話で対応し、翌日の作戦を授けた。



● こんな例がいくつもある。ここまで極端ではなくても、受験生であれば、それぞれに不安や絶望や無力感を何度となく味わっているはず。でも受験から逃げることはしたくない。どうすればいいのか？

● 自分の気持ちをしっかりと分析することだ。分析すればどうしたらいいか見えてくる。ただ、過去に経験のないことだから、「やれ」と言われてもなかなかうまくいかない。そこで、ささやかなお手伝い。よく読みなさい。

① 不安で勉強できないというキミは本当にそれでいいのか？そんな過ごしかたをするためにこの一年を過ごしてきたのか？よく考える。

② 不安で勉強できないというキミが本当に望んでいるのは何か？キミはもう忘れてしまっている。全力を出して合格することではないのか？毎日全力を出して合格すると十回唱えろ。

③ キミの不安は全て想像だ。不安に思うことは正しいが、それをひきずるのは自分の願望を裏切ることだ。

〈1〉 間に合わなかったらどうしよう。

〈2〉 伸びない気がする。

〈3〉 受かる気がしない。

〈4〉 落ちたらどうしよう。

● こう思うのは正しい。でも、それにひきずられて毎日を過ごせば、不安はどんどん大きくなり、そこにきちんと勉強していない自分へ自己嫌悪が加わり、もつと状態は悪くなる。といって、不安は消すことはできない。不安は持ったまま、合格の可能性が少しでも大きくなるよう行動するのだ。

(小林)

現小学6年生対象『新中1準備講座』2月スタート

授業日程(全11回)

教室	柏・江戸川台	我孫子・新柏・流山おたかの森
日程	2/7(月)~3/17(木)	2/4(金)~3/15(火)
※	準備講座から通われる方のみ 2/3(木)にガイダンス	準備講座から通われる方のみ 2/1(火)にガイダンス
曜日	月・木	火・金
授業時間	16:50~18:25 ※柏教室17:00~18:35	

～準備講座の内容説明から、最新の中学事情・入試情報まで～

新中1 保護者会

1/ 2 2 土 11:00
1/ 2 9 土 12:00

※保護者会は、今後通塾を検討されている方も参加可能です。
お気軽に各教室までお問い合わせください。